

(写真・文 吉岡義雄)

キアシナガバチ

(学名 : *Polistes rothneyi*)

【ハチ目スズメバチ科】



▲ 発達した大顎で獲物を噛み砕き、団子状にして巣に持ち帰る



▲ キアシナガバチの識別点は、前伸腹節（白○内）の黄紋。セグロアシナガバチはこの部位が黒色

キアシナガバチは、近縁なセグロアシナガバチと並び、日本のアシナガバチ類の中では最大です。この2種は非常によく似ていますが、前伸腹節に一对の縦線状の黄紋があるかどうかで見分けることができ（写真右）、この有無がそれぞれの種の和名の由来にもなっています。生態もよく似ていますが、セグロアシナガバチは平地、本種は低山地を好む傾向があります。比較的攻撃性が強く、人家や畑地にも好んで営巣するため、人が刺される危険が大きい種です。

秋にオスと交尾した新女王は、樹洞や石の隙間などで越冬し、早ければ翌年の3月下旬に活動を再開します。越冬するのは新女王のみであるため、働きバチが羽化するまでは、営巣から狩り、産卵、そして幼虫への給餌も全て女王が単独で行います。働きバチが羽化すると、それまで女王がこなしていた仕事の多くを働きバチが担うようになります。秋になると次世代を担う新女王と雄バチが羽化し、交尾を行います。女王は秋には寿命を迎えるため、コロニーが年を越えることはありません。

アシナガバチ類は毒針で人を刺す衛生害虫であると同時に、チョウ目の幼虫（芋虫）のような野菜を食べる農業害虫の天敵でもあります。そのため、適切な距離を保って共存することが望ましい昆虫です。とは言え、家屋の軒下や外壁、農道沿いなど、人通りの多い場所に営巣された巣は駆除すると良いでしょう。駆除は働きバチが羽化する初夏までに行うと比較的安全です。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「自然素材を活かす技
～木地、編み組、草木染めと伝承製品の魅力～」

会 期：2022年10月29日(土)～2023年3月27日(月)
場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー